

スライド 1

実践発表

「児童・生徒が自己実現を図る学校教育の展開」

～系統性・連続性を踏まえた自己指導能力の育成を通して～

令和2・3年度 豊島区教育委員会研究開発指定校
豊島区立仰高小学校長 稲垣 昌弘

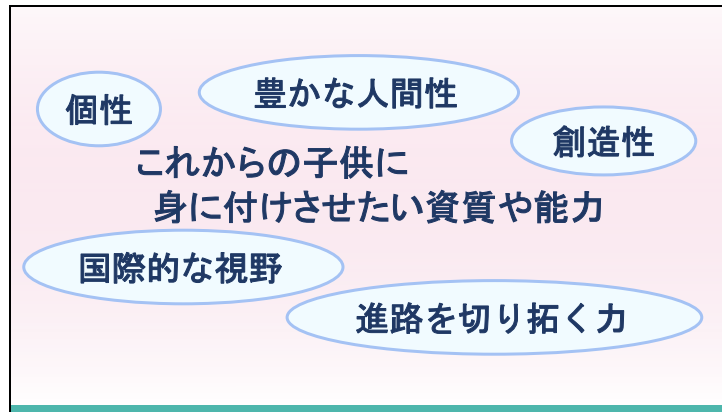
豊島区立仰高小学校長 稲垣 昌弘 と申します。

豊島区教育委員会研究開発指定校として

「児童・生徒が自己実現を図る学校教育の展開」
～系統性・連続性を踏まえた自己指導能力の育成を通して～

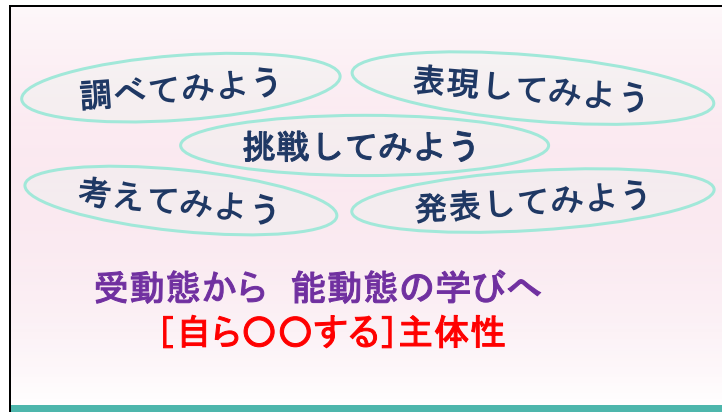
を研修主題として行いました研究実践について
お話しさせていただきます。

本研究は、私の前任校である
豊島区立朋有小学校と豊島区立西巣鴨中学校の
小・中学校が連携・協力して研究を進めたものです。



生徒指導の分野で 研究をすすめていくにあたり、
はじめに、小・中学校の教職員で話し合い、
これからの子供たちに 身に付けさせたい 資質や能力を
具体的にイメージしてみました。

個性 創造性 国際的な視野
豊かな人間性 進路を切り拓く力 の
資質や能力を伸ばし、 児童・生徒が 自主的に判断、行動し、
積極的に 自己を活かしていく能力 や …



調べてみよう 発表してみよう
表現してみよう 考えてみよう 挑戦してみよう

受動態 受け身の学びから
能動態 児童・生徒が 自ら主体的に 活動できる学びへ
変換していくことが 必要であると 感じました

研究のねらい

- ①9年間を見通した具体的な支援・指導
- ②自己指導能力の定義の確認
- ③共通実践を通じた
進級時の不安解消

そこで研究のねらいを

- ・9年間を見通した 自己指導能力を育成するための
具体的な支援や 指導の方法を 検証し 実践すること。
- ・『自己指導能力』について、定義を確認し、
これまでの授業改善に加え、新たな共通実践を 検討すること。
- ・共通実践を通して、 児童・生徒の9年間を 大きな学びの流れと捉え
進級時のつながりに 連続性を持たせ、 不安を解消すること

の 3つのねらい から 迫ること と しました。

自己指導能力の定義

- ・適切な行動を自分で考え、決定し、行動する能力
- ・他者のためにも、また自分のためになる行動を自分で考える能力

私達は 研究の 根幹となる「自己指導能力」を

- ・適切な行動を自分で考え、 決定し、 行動する能力
 - ・他者のためにも、 また 自分のためになる行動を 自分で考える能力
- と 定義しました。



さらに【自己指導能力】を 図のようにイメージしました。

○「自己受容」

自己をありのまま認め、
自分は価値がある 存在であることを 理解できること

○「自己理解」

自分の特性や 価値観への 理解を深め、
自分を大切に、個性を伸ばす。
また[共感的な人間関係を構築する]こと

○「自己決定」

9年間の 生徒指導の中で、
自分で判断し、実行して、その結果に対しての責任をとることが
できるようになること

この 3つの力を 一体として 身に付けさせるために
小・中学校での具体的な指導内容を検討し、実践すること
としました。

自己受容、自己理解、自己決定の力を育成するため		
自己存在感を高める	自己決定の場を与える	共感的な人間関係を構築する
◆自己有用感、自己肯定感 ◆自分がかげがえのない存在であることを実感する。	◆自ら判断し決定し実行する。 ◆行為と責任	◆連帯感・仲間意識 ◆人として相互に尊重し合う態度
児童・生徒一人一人のよさや可能性を把握し、それを生かす授業を工夫する。そして、認める場面を意図的に設定する。	行為(行動)選択の基本は教師が指導し、選択の自由は自ら責任がとれる範囲で与える。	豊かな集団生活が営まれる教育的環境を形成する。

□つの力を確実に育成させるために、

「自己存在感を高める」工夫をします。

○自己存在感とは、自分は価値ある存在であるということを実感することです。

教師は、子供一人一人の存在を大切に思って指導することが大切です。

また、子供の独自性や個性を大切にしたい指導が必要となります。

また、

「自己決定の場を与える」工夫をします。

○自己決定とは、自分で決めて実行するという事です。

常に『相手』と『自分』の両者を中心にすえて行動するという事。

つまり、身勝手な「自己決定」ではなく、他の人々を大切にすることを根拠

にして自分の行動を考えさせなければなりません。

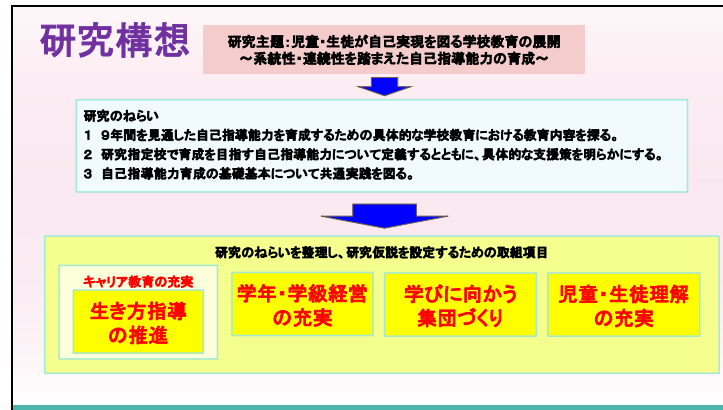
さらに、

「共感的な人間関係を構築する」工夫をします。

○共感的な人間関係とは、相互に人間として無条件に尊重し合う態度で、ありのまま

に自分を語り、理解し合う人間関係をいいます。

共感的な人間関係は、教師と子供の関係だけでなく子供同士の間でも大切です。



研究の構想を示します。

児童・生徒の学びと育ちを確かなものとするためには、小・中学校9年間の連続した指導が必要です。

私たちは、

- ・キャリア教育につながる「生き方指導の推進」
- ・プラスの結びつきで構成された親和的で安心できる「学級・学年経営の充実」
- ・互いに協力し高め合える「学びに向かう集団づくり」
- ・指導の基盤となる「児童・生徒理解の充実」

を重点として取り組もうと考えました。



その為に 小中の教職員が、小グループに分かれ、
授業場面 ・ 生活場面 ・ 生き方指導 ・ 児童、生徒支援
という 4つの分科会を 構成しました。

授業場面では、 児童・生徒が豊かに学び、確かな学力を身に付けるために。
そして 教員にとっても児童・生徒の学びを実感するために。
授業づくりや学級づくりを行うための具体的な働きかけを …

生活場面では、 一人一人の 児童・生徒の 個性の伸長を図り、
将来、社会の中で 自己実現できるための力を身に付けさせる
指導の工夫と改善。 児童・生徒の意欲を 高めるための働きかけを …

生き方指導では、 将来の進路や 目標に向かって、
他者との関わりの中で自己指導能力を発揮することができるようにする
働きかけを …

児童・生徒 支援では、 発達段階に応じたキャリア教育
タブレットを活用した個々のつながり、
教育機関や保護者と連携した支援体制を 強化する 働きかけを …

小学校と中学校の教職員が互いに議論し、振り返りながら、
共通実践を進めました。

<p>取組の例</p> <p>小学校・中学校 における共通実践</p> <p>授業場面分科会 「10の柱」</p>	<ol style="list-style-type: none">1 導入時 ・授業開始時に姿勢をよくしてあいさつをする。2 導入時 ・授業開始時に先生の話をしっかり聞く。 ・本時の目標や流れを確認する。3 導入時 ・授業開始時に道具を整える。 ・机上整理を行い、他教科の教具などはしまう。4 目 標 ・ねらいを伝え、見通しをもたせる。(板書カードを活用する。)5 自分の考えをもつ時間を設ける。書く・発表する時間を確保する。6 授業中にほめて意欲をもたせる。 (授業後のノート点検・スタンプなどでフィードバック)7 全員が参加する授業を行う。(協働学習)8 友達の話をしっかり聞く。うなずく視線を送る。 ・「聞く」時間のメリハリをつける教員の声かけを行う。9 ノートの書き方 ・わかりやすい板書を行う。(めあて・まとめを必ず書く) ・記入に配慮が必要な児童生徒への個別対応を行う。 (板書カードの活用・個別の声かけ・穴うめプリント)10 振り返り・まとめの時間を設ける
--	---

本音の議論を進め、始めに
4つの分科会において最も大切にしたいこと。
小中で共通実践する「10の柱」を作成しました。

授業場面分科会では、
・授業開始の挨拶を丁寧に行うこと。
・ねらいやまとめなどの板書を丁寧に行い、ノート指導を行うこと。
など当たり前と思われることを9年間丁寧に指導しようと考えました。

生活場面では、
・登校時のあいさつを丁寧に指導する。
・チャイムの指導では、教員がチャイム前に教室で待機しよう。

などです。

「当たり前であるが、中々徹底できないことを」9年間を通じて共通実践を行うこと
とで、それぞれの学年に応じた 資質や能力・態度 を育成し、
確かな学びと育ちが 子ども達の姿として現れるようにしたいと考えました。

小学校成熟期 高学年 事例

学習場面:総合的な学習の時間
(自己決定の場を与える)

ねらい:環境問題に危機感をもち、自分事として改善していけるよう学習に取り組む。

多くの 取組事例について 詳しく お伝えしたいところですが、
本日は、 一部を紹介いたします。


「小学校成熟期」として私たちが定義した
6年生の事例です。

学習場面 「総合的な学習の時間」において
「自己決定の場を与える」手立てについて 紹介いたします。

ねらいは、
「環境問題に危機感をもち、
自分事として改善していけるように 学習に取り組む。」 ことです。

**学習場面:総合的な学習の時間
(自己決定の場を与える)**

小学校成熟期 高学年 事例

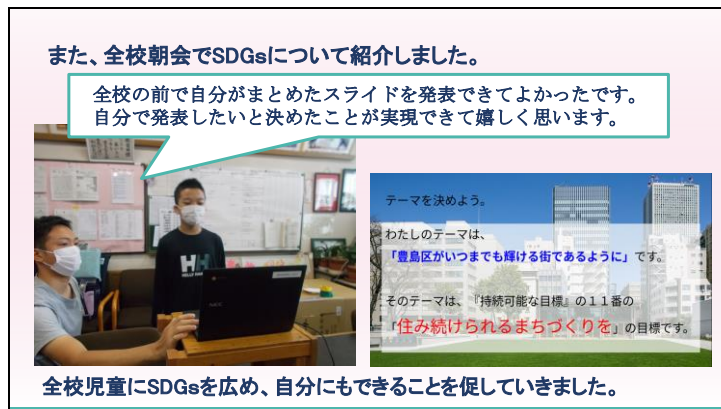


SDGsの17の目標のうち、環境問題について調べました。自分事として改善していけるよう、スライドにどのようにまとめるか自分で決めていきました。

ちょうど「SDGs」が盛んに取り上げられ始めた時期でした。

17の行動目標の中から、

環境問題について 児童自ら課題を設定し、
図書資料や インターネット等を利用して 調べる活動を行いました。
その際、 自分事として学習を展開していけるよう、
発表のためのスライドを どのようにまとめるか
誰にどの様につたえるかゴールを意識させながら、
一人一人が 自ら工夫できるように
題材や発表方法 など 自己決定の場を与えながら、支援しました。



そして、学年での発表会を経て

代表の児童が オンラインによる全校朝会に臨みました。他学年にわかりやすく伝えるために、画面や言葉を工夫しての発表はとても立派でした。

また、「住み続けられる 街づくり」をテーマとした児童は、作成した資料を最終的に提言書として豊島区に渡すことができました。

目標に向かって探求する中で、自分の考えを練り上げ、深めること。
また、自分の考えや思いを根拠を示して、相手に伝えること。

そして、ここが大切です。

他者からの共感的な評価をたくさんもらうことにより、
児童は自己理解を深め、自己有用感を高めることができたと思います。

このように、自分で決めたことを 課題意識を持って実現していくことで、
めあて や 夢に向かって、努力する力を伸ばし、
個々の成長、自立へと 繋がっていくことと考えます。

中学校入門期 事例 中学校 1年生

生き方の場面:学級活動
(自己存在感を高める手立て)

ねらい: 様々な出身小学校の生徒で構成された新しい学級において、班活動を通して互いの良いところを伝えあうことで、自己存在感を高めあう。

続いて、中学校での 事例を紹介します。

中学校入門期と位置付けた 中学校1年生では、
学級指導での生き方の場面を使って 自己存在感を高める活動に
年間を通じて 取り組みました。

中学校入門期 事例 中学校 1年生
生き方の場面:学級活動 自己存在感を高める手立て

級友のよいところを発見しよう
～レベルアップシート2～

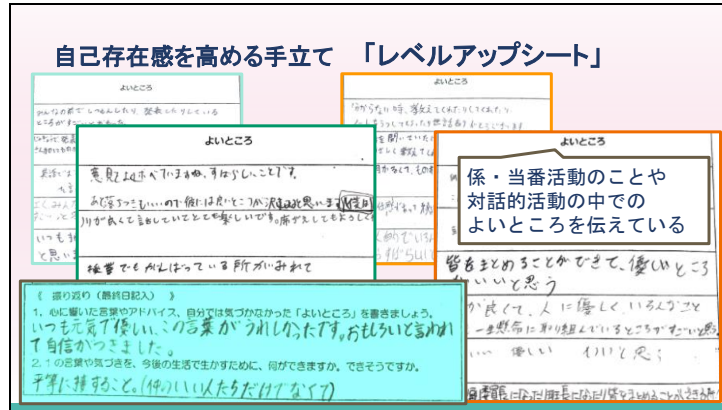
「レベルアップシート」

約8割の生徒が
意欲的に取り組み、
行動へよい変容が
見られた。

小学校でも 取り組んでいる、
「レベルアップシート」へ、 級友のよいところを 記入しました。

出身小学校別ではない、新たな学級集団とするための取組です。
班活動、係活動などで、他者の良いところを見つけ、
記入し相手に伝える活動です。

「レベルアップシート」や「よいところさがし」のシートの活動を年間を通じて行
うことで 多くの生徒が、自分のよいところを 肯定的に受け止め、
係や 当番活動に よりいっそう真剣に 取り組むようになりました。



大変読みづらいのですが、
このスライドは、実際の中学校1年生の レベルアップシートです。

5月のシートには、授業に積極的に取り組む様子や、助けてもらったこと
他者との関わりの中での良い気づきを記入しています。

10月のシートには、班活動など、
中学校での 具体的な活動についてのことが 書かれています。
生徒たちが、学習場面や 生活場面の中で感じた、
具体的な よいところを 伝えあっています。

そして、3月 最終日の振り返りでは、
他者からもらった言葉と自分の言動を結びつけて考え、
自分では気づかなかった 自分のよいところをふりかえり、
自己存在感を高めることに つながりました。

また、中学校入門期では 小学校からの実践である。あいさつや学習用具の
準備、教室移動なども同様に指導し、入学時の不安を少なくする配慮を行いま
した。

成 果
《児童の変容》

- ・主体的に学びを選択する姿勢が身に付いた。
- ・互いを尊重し、受容する態度が養われた。
- ・特別な支援が必要な児童の自信が高まった。

この2年間の 研究による成果です。

はじめに、 小学校 児童の変容 です。

- ・主体的に学びを選択する姿勢が 身に付きました。
自分の考えを持ち、他者と関わる中で、自らの考えを修正しながら、より確かなものとするという学習を全学年で行うことができました。

つぎに

- ・互いを尊重し、 受容する態度が 養われました。

低学年では 個や、ペアといった 小集団での活動、
中学年では 学級や 学年単位での活動、
高学年では 学級や学年 に加え、 他学年との活動と関りを深くすること
で

児童に、他を思いやる 親和的で安心できる学級づくりを進めることにより
互いを尊重できる 態度が身に付いてきました。

そして、

- ・特別な支援が必要な児童には、自分の良さを認め、高める支援を継続することにより、自己有用感を高めることができました。

成 果

《生徒の変容》

- ・自分で判断し実行する姿勢が身に付いた。
- ・「共感的な姿勢」や社会の一員として「貢献する態度」を育むことができた。
- ・特別な支援が必要な生徒の自己理解を支援し、自尊心を高めた。

次に、中学生 生徒の変容 です。

- ・自分で 判断し 実行する姿勢が 身に付きました。

中学校では、複数の小学校から集まった学級づくり
更に大きな学年集団と生徒会・委員会活動や部活動という
学年を超えた関わりや、卒業後を意識した 地域や社会との関わり、
を増やことで、自己決定の力を育てました。

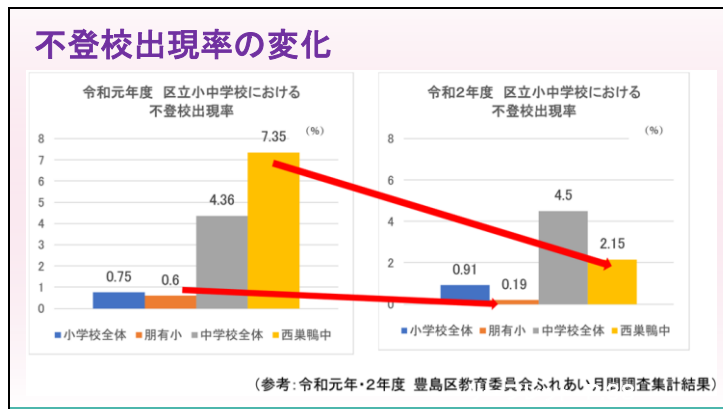
つぎに、

- ・「共感的な姿勢」や社会の一員として「貢献する態度」を育むことができました。

小学校から継続した、場面に応じたあいさつや言動ができるようになる
ための丁寧な支援、新たな学級づくりから始まった 互いを尊重し理解する
取り組みを通じ、自らの生き方を 深く考える、『共感的な姿勢』や
他者との関わりの中で、その一員として『貢献する態度』を育みました。

そして、

- ・特別な支援が必要な生徒の自己理解を支援し、他との関わりの中で
個々の強みや能力を伸ばす指導を通して、自尊心を高めることが
できました。



児童・生徒支援分科会では、

不登校傾向にある児童生徒に対して、一人ひとりに応じた対策を検討し組織的に実施しました。

タブレットを活用して、

- ・オンラインでの授業配信を行ったり。
- ・姿を見せない、声も聞けない児童生徒には、メールでの双方向での言葉のやりとりを行ったり。

毎日のつながりを確実に継続する支援を行いました。

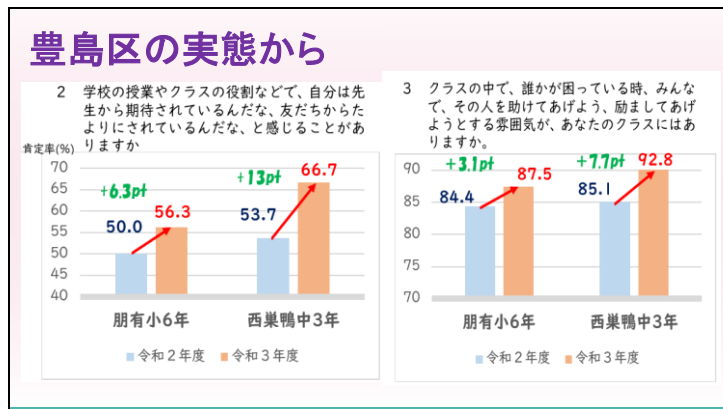
外国籍の児童には、教育センターと連携した日本語指導や通訳派遣を積極的に取り組みました。

そのような取組を続ける中で、

小学校、中学校共に、不登校の出現率が改善されました。

今も、

一人一人の児童・生徒が安心して学習・生活できる居場所づくりの確保に向けて小中の連携と共に担任任せにしない組織的な対応をすすめています。



豊島区教育委員会が毎年2回 実施している、心理検査の実態調査では、

「学校の授業やクラスの役割などで、自分は先生から期待されているんだな、友達から たよりにされているんだな、と感じることがありますか。」という質問に対して、

- ・朋有小学校6年生では、 6.3ポイント 、
- ・西巣鴨中学校3年生では、 13ポイント 上昇し、

「クラスの中で、誰かが困っている時、みんなで、その人を助けてあげよう、励ましてあげようとする雰囲気が、あなたのクラスにありますか。」という質問に対して、

- ・朋有小学校6年生では、 3.1ポイント 、
- ・西巣鴨中学校3年生では、 7.7ポイント 上昇しました。

親和的な学級経営が展開され、児童生徒がプラスのつながりを高めていることが分かります。

成 果
《教員の変容》

- ・小・中学校協働での実践事例の共有・連携
ができた。
- ・円滑な接続と連続性を意識した指導を充実
させる取組の中で、小中の連携が強固にな
り、指導力向上につながった。

続いて、教員の変容では、

・小・中9年間の系統的な手だての開発、研究を進める中で、「小・中学校での本気の議論と実践事例の共有と連携ができました。」

そして、

・小学校から中学校への円滑な接続と連続性を意識した指導を充実させること
で、

小学校と中学校相互の、また、ベテランと若手教員との確かなつながりが強
まり、

教職員の 指導力向上 につながったことがこの研究での 一番の財産で
す。

課 題

- ◆自己指導能力を育成するために、小・中学校のつながりを生かし、日々の実践を通して、検証を積み上げていく必要がある。

今後の課題は

自己指導能力を 育成するために、

研究発表を契機に築いた小中の連携を充実させ、
日々の実践を通じて、検証を積み上げていく必要があると考えます。

2年間の研究を通じ、
小中学校の教職員がそれぞれ切磋琢磨しながら議論し、
日々の実践を評価・改善する下地ができました。

今後の実践を継続する中で、より効果的なものへと改良を進めなければなりません。

系統性・連続性を活かした自己実現

系統性・連続性を生かした自己実現

区分	学級	小学校成育期					中学校成育期		
		小1期	小2期	小3期	小4期	小5期	小6期	中1期	中2期
自己存在感を高める手立て	学習	1. 基礎的・基本的な知識・技能の習得を促す。2. 学習の楽しさや意義を伝える。3. 学習の習慣や態度を育てる。4. 学習の成果を認め、自信を育てる。5. 学習の楽しさを伝える。					1. 基礎的・基本的な知識・技能の習得を促す。2. 学習の楽しさや意義を伝える。3. 学習の習慣や態度を育てる。4. 学習の成果を認め、自信を育てる。5. 学習の楽しさを伝える。		
	生活	1. 生活習慣の定着を促す。2. 生活の楽しさや意義を伝える。3. 生活の習慣や態度を育てる。4. 生活の成果を認め、自信を育てる。5. 生活の楽しさを伝える。					1. 生活習慣の定着を促す。2. 生活の楽しさや意義を伝える。3. 生活の習慣や態度を育てる。4. 生活の成果を認め、自信を育てる。5. 生活の楽しさを伝える。		
	能力	1. 基礎的・基本的な知識・技能の習得を促す。2. 学習の楽しさや意義を伝える。3. 学習の習慣や態度を育てる。4. 学習の成果を認め、自信を育てる。5. 学習の楽しさを伝える。					1. 基礎的・基本的な知識・技能の習得を促す。2. 学習の楽しさや意義を伝える。3. 学習の習慣や態度を育てる。4. 学習の成果を認め、自信を育てる。5. 学習の楽しさを伝える。		
自己決定の場を育てる手立て	学習	1. 基礎的・基本的な知識・技能の習得を促す。2. 学習の楽しさや意義を伝える。3. 学習の習慣や態度を育てる。4. 学習の成果を認め、自信を育てる。5. 学習の楽しさを伝える。					1. 基礎的・基本的な知識・技能の習得を促す。2. 学習の楽しさや意義を伝える。3. 学習の習慣や態度を育てる。4. 学習の成果を認め、自信を育てる。5. 学習の楽しさを伝える。		
	生活	1. 生活習慣の定着を促す。2. 生活の楽しさや意義を伝える。3. 生活の習慣や態度を育てる。4. 生活の成果を認め、自信を育てる。5. 生活の楽しさを伝える。					1. 生活習慣の定着を促す。2. 生活の楽しさや意義を伝える。3. 生活の習慣や態度を育てる。4. 生活の成果を認め、自信を育てる。5. 生活の楽しさを伝える。		
	能力	1. 基礎的・基本的な知識・技能の習得を促す。2. 学習の楽しさや意義を伝える。3. 学習の習慣や態度を育てる。4. 学習の成果を認め、自信を育てる。5. 学習の楽しさを伝える。					1. 基礎的・基本的な知識・技能の習得を促す。2. 学習の楽しさや意義を伝える。3. 学習の習慣や態度を育てる。4. 学習の成果を認め、自信を育てる。5. 学習の楽しさを伝える。		
社会的規範を育む手立て	学習	1. 基礎的・基本的な知識・技能の習得を促す。2. 学習の楽しさや意義を伝える。3. 学習の習慣や態度を育てる。4. 学習の成果を認め、自信を育てる。5. 学習の楽しさを伝える。					1. 基礎的・基本的な知識・技能の習得を促す。2. 学習の楽しさや意義を伝える。3. 学習の習慣や態度を育てる。4. 学習の成果を認め、自信を育てる。5. 学習の楽しさを伝える。		
	生活	1. 生活習慣の定着を促す。2. 生活の楽しさや意義を伝える。3. 生活の習慣や態度を育てる。4. 生活の成果を認め、自信を育てる。5. 生活の楽しさを伝える。					1. 生活習慣の定着を促す。2. 生活の楽しさや意義を伝える。3. 生活の習慣や態度を育てる。4. 生活の成果を認め、自信を育てる。5. 生活の楽しさを伝える。		
	能力	1. 基礎的・基本的な知識・技能の習得を促す。2. 学習の楽しさや意義を伝える。3. 学習の習慣や態度を育てる。4. 学習の成果を認め、自信を育てる。5. 学習の楽しさを伝える。					1. 基礎的・基本的な知識・技能の習得を促す。2. 学習の楽しさや意義を伝える。3. 学習の習慣や態度を育てる。4. 学習の成果を認め、自信を育てる。5. 学習の楽しさを伝える。		

自己指導能力の育成

最後に
時間の関係で紹介だけにさせていただきますが
本研究をまとめたリーフレットには、

「自己指導能力の育成」のため
小学校〇年生から中学校〇年生まで〇年間を見通した指導計画を

- ◆自己存在感を高める 手だて
- ◆自己決定の場を与える 手だて
- ◆共感的な人間関係を構築する 手だて

の〇つの指導上の留意点と関連づけて表に示しました。

チェックリスト

【教員の具体的な手立て】



リーフレット P.42～43

チェックリスト【教員の具体的な手立て】

<授業開始を高める>

- 1 授業を開始する前に、学習に必要な準備が整っているを確認している。
- 2 授業の目的や目標、主題、主題の理解を促している。
- 3 既習事項の振り返りや予習の復習を促し、主体的な学習態度を促している。
- 4 授業の進め方の見通しを、自分の考えを整理する機会を設けている。
- 5 一人一人の学習の進捗に、きめ細かく寄り添って授業を進めと促している。
- 6 授業の進め一人一人の学習状況を把握し、適切な進め方をしている。
- 7 テーマや授業の進め方について、具体的な授業の進め方をしている。
- 8 一人一人が自分の進捗を持って進め、教材を学んでいる。
- 9 授業の進め方について、具体的な授業の進め方をしている。
- 10 授業の進め方を促していることを授業の進め方に促している。

<自己学習の確かなる>

- 11 授業の進め方について、具体的な授業の進め方をしている。
- 12 授業の進め方について、自分の考えを整理する機会を設けている。
- 13 振り返りやまとめの時間を設け、これらの学習について考えさせている。
- 14 授業の進め方を自分の考えに基づき、具体的な授業の進め方に促している。
- 15 授業の進め方について、具体的な授業の進め方をしている。
- 16 授業の進め方について、具体的な授業の進め方をしている。
- 17 テーマや授業の進め方について、具体的な授業の進め方をしている。
- 18 授業の進め方について、具体的な授業の進め方をしている。
- 19 テーマや授業の進め方について、具体的な授業の進め方をしている。
- 20 授業の進め方について、具体的な授業の進め方をしている。

<絆の絆人間関係を構築する>


- 21 授業の進め方について、具体的な授業の進め方をしている。
- 22 授業の進め方について、具体的な授業の進め方をしている。
- 23 互いに意見を交換し合い、自分の考えを整理する機会を設けている。
- 24 互いに意見を交換し合い、自分の考えを整理する機会を設けている。
- 25 ペア・グループ学習や発表の機会では、互いに意見を交換し合う相互関係の構築を促している。
- 26 授業の進め方について、具体的な授業の進め方をしている。
- 27 授業の進め方について、具体的な授業の進め方をしている。
- 28 授業の進め方について、具体的な授業の進め方をしている。
- 29 授業の進め方について、具体的な授業の進め方をしている。
- 30 授業の進め方について、具体的な授業の進め方をしている。
- 31 授業の進め方について、具体的な授業の進め方をしている。

また、
4つの場面ごとの「10の柱」を作成したとお話しましたが、
教員向けの自己チェックリストも作成し、掲載しております。

授業場面でのチェック項目 が 30

チェックリスト

【教員の具体的な手立て】



リーフレット P.42～43

＜生き方指導の場面＞

＜自己存在感を高める＞

- 1 学習するときに充実・生体自身のよいところを生かし、学ぶことの大切さを示している。
例：【レベルアップシート①】一振り返り欄に活用など
- 2 児童・生徒が自分の興味や関心、長所や短所などについて把握できるよう支援している。
例：学習活動・総合的な学習の時間・三者面談など
- 3 児童・生徒が自分から役割を担って分担するなど、周りの人と力を合わせて行動するように支援している。
例：学校行事・委員会・係活動・部活動・学習活動・当番活動・総合的な学習の時間など

＜自己決定の糧を与える＞

- 4 児童・生徒が不明確なことや苦手なことでも自ら進んで取り組むよう、励ましたり取得したりして支援している。
- 5 児童・生徒が分からないことやもっと知りたいことがある時、自分から進んで資料や情報を収集できるように工夫している。
- 6 児童・生徒が意思をもって物事を計画的に進められるよう、予定を済ますなど工夫している。
例：【レベルアップシート①】一振り返り欄に活用・クラス運営・学習の予定表示など
- 7 多学校で学んでいることと自分の将来とのつながりを考え、学ぶことや働くことの意義について考える学びの機会を与えている。
例：総合的な学習の時間や学習活動でのキャリア教育など
- 8 自分の将来について具体的な目標を立て、その実現のための方法について考える機会を持たせている。
例：総合的な学習の時間や学習活動でのキャリア教育など


＜共感的な人間関係を構築する＞

- 9 学校や家庭・地域で自分のよいところを生かし、行動していくことの意義を示している。
例：【レベルアップシート②】一振り返り欄に活用など
- 10 友達や家族の意見を聞く時、その人の考えや気持ちを受け止めることの大切さを示している。
- 11 相手が理解しやまいように工夫しながら、自分の考えや気持ちを伝える機会を与えている。

生き方指導のチェックリストは、11項目

チェックリスト
【教員の具体的な手立て】

※ カレンダー



タブレットを使用した合理的配慮
カレンダー機能の活用例

リーフレット P.42～43

【注】生徒の実態や場面に応じて、やややうで内容は具体的に修正して活用してください。

《生活場面》

<自己管理を高める>

- 1 あいさつや始業・終業時の号令視察を、確認している。
- 2 教室内が整理されていない場合は、整理整頓させている。
- 3 休み時間は、次の授業の準備や後片付けを自ら進んでできるようにしている。
- 4 係活動では、一人一役の役割と振り返りの場面を作っている。

<自己決定の場を与える>

- 5 チャーム審議を推進し、児童・生徒が全員参加しているかを確認している。
- 6 係活動・審議会・学校行事では、一人一人の役割が明確になるよう集思づくりをしている。
- 7 場に応じた言葉遣いや、コミュニケーションをとっている。

<共感的な人間関係を構築する>

- 8 正しい姿勢で座るなど児童・生徒の良い姿勢を褒め、好ましくない姿勢を正している。
- 9 授業中の食事マナーを統一し、集団生活を身に付けさせている。
- 10 聞く態度を養い、児童・生徒自身が行動できる指示と取組を心がけている。

《児童・生徒支援》

- 1 授業で、タブレット（Chromebook）を活用している。
- 2 児童・生徒への語彙増に、タブレット（Chromebook）を活用している。
- 3 欠席や不登校の児童・生徒連絡に、タブレット（Chromebook）を活用している。
- 4 欠席や不登校の児童・生徒用に、タブレット（Chromebook）に授業内容を掲載している。
- 5 不登校児童・生徒への支援として、各機関と連携して対応している。

《生活場面》のチェックリストでは、
学校生活に必要なルールを中心に 10項目。

《児童・生徒 支援》の チェックリストでは、
タブレットの有効活用を中心に、5項目。

を作成しました。

チェックリストは、小・中の教職員が自分たちの学校状況をもとに作成したものです。各学校の児童・生徒の実態や場面に応じて修正して活用していただければと思っています。



ご清聴ありがとうございました

小学校・中学校が連携した実践の発表を終わります。

ご清聴ありがとうございました。